

## 遺品整理の専門会社を 日本ではじめて設立

キーパーズ代表取締役 吉田太一



今、多数のメディアで取り上げられ話題になっているキーパーズは、遺族に代わって遺品整理を行う専門会社だ。代表取締役の吉田氏に、大田区の東京支店でお話をうかがった。

——まずは、キーパーズがどのような会社なのか、仕事内容について教えてください。

吉田 遺品の大切さとか思いとか、そういったものを考えて、遺族のサービスとしてスタートした会社です。人間だったらやっぱり、身内の荷物をそう簡単には捨てたくない、故人の思い出を少しでも残してあげたいという思いが根本にある。

また、身内のものを自分の手で捨てるということにも抵抗が

ある。かといって、ゴミ屋さんにやってもらうのも抵抗がある。だったら遺品として取扱ってもらえる業者がないか。それに気づいた僕たちが遺品整理の専門会社をやることで、精神的にも物理的にも時間的にも遺族が救われる。それが最初のきっかけです。

今はそれだけではなくて、故人にも何か役立つことはないかという考え方に変わってきて、故人と遺族のお手伝いをする会社としてやっています。

——だんだん発展して、広い意味で仕事をとらえるようになっていったのですか。

吉田 当初は「葬儀後のお手伝い」というキャッチコピーだったのが、故人の欲しそうなものを天国へ届けてあげるという目的もそなわってきた。

じゃあ、遺品というのは何かということなんだけど。遺品とは本来、本人が家具屋さんに行

ったりして、自分自身で選んで、気に入って家に連れてきたものばかり。魂こそそこにはないのだけれうけども、ペットを買ってきたのと一緒やないですか。揃えたときには嬉しくて嬉しくて仕方がなかったんじゃないか。家にいるときは誰よりも自分ことを見守ってくれて、自分を励ましてくれた仲間たちなんですよ。

極端なことというのと、何も無い部屋でぼつんと暮らしていたら、人間精神的に参ってしまうよ。そこには色々なものがあり、暗くなれば電気が照らしてくれる。寂しくなっても、テレビをつけたらテレビがしゃべってくれる。寒かったら布団があたためてくれて、というように共に生活してきた家財道具たちということになるわけ。

今となっては故人たちは、それらを置いたまま天国に手ぶらで行ってしまったている。天国のお爺さんに聞いてみたことは1

回もないけど、仮に聞けたとしたら、絶対に「天国でも今まで使っていたまくらとかを使いたくないよな」って言うに決まってる。俺は絶対そうだと思う。それやったら、なんとかそっちに届けてあげたいなという気持ちで、供養すれば天国に届くのではないかと考えるようになったんです。

——深いですね。

吉田 深いよね。僕もね、自分で言うのもなんだけれども、元々そんなに固くなるしいタイプじゃなくて、ざっくりばらんな感じで。なぜそんなに故人を想うようになったかというところ、最近の遺族はめんどくさがる人が多いわけです。

やはりそれでは寂しいなと思う。故人にも何かしてあげたい。何ができるかって言われたら、やっぱり遺品は天国に届けてあげる。買ったばかりの真新しいものがあつたら、誰かに使って